

続・ふるさと

こぼれ話

星宮神社のご神体

大字芳志戸字中郷に鎮座し、大字芳志戸の総鎮守である星宮神社は、創祀は不詳であるが、大同2年とする神社が多い。

星宮神社の別名を「北辰館」といい、主祭神は甕速日神（かむはやひのかみ）で、配神は磐裂神（いわさくのかみ）、根裂神（ねさくのかみ）の2神である。

星宮神社の仏名は虚空蔵菩薩であり、仏の使いが「うなぎ」なので、この菩薩を祀る地域ではうなぎを食べないという言い伝えもあるが、芳志戸では聞かない。

星宮神社のご神体、お姿はどのようなものなのか。大昔は山・川・滝・岩や

大木など自然を神としてあがめていた。星宮神社のご神体は石棒と黒曜石である。これらは石器時代に使用されていたもので、特に黒曜石は矢じりに使われ、狩りにはなくてはならないものであった。産出先は限られ、本県では高原山から産出されているが、長野県産が良質といわれている。

ではなぜ、ご神体が石棒と黒曜石とわかったのか。それを知る手がかりは手彦子の大島三郎家にある。大島家が大切に保存している絵である。これは享保期の医者梅澤が、ご神体を絵に書きとめたものである。梅澤の墓は大島家の墓地にあり、般若

寺の碑塔の建立者である種姫さまにかかわりがあるようである。

第30回

生涯学習課総合情報館推進係
TEL 028 (677) 2525



星宮神社の宮司は見目守生氏である。

編集後記

□ユートピア農園で野菜づくりに挑戦しています。今年の夏は、トウモロコシ、トマト、ピーマン、ズッキーニ、スイカなど旬の味覚を楽しみました。野菜を作り始めて気づいたことは、当たり前のことですが「旬」の時期がいちばんおいしいということ。旬の野菜を収穫し、その日のうちにいただく。なんともぜいたくなことです。

□とは言っても、農作業初心者私。収穫に行っても、判断に迷い、食べごろを逃してしまつた・なんてこともしばしば。困つた時は農業の大先輩に相談して（というよりは作業をしてもらつて）います。

■また、農園仲間との野菜の交換など、人との交流も楽しみのひとつです。いかがですか？皆さんも、農園仲間になりませんか？

(廿)

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
- 苦情専用フリーダイヤル
☎0120 (753) 898

☞芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



Egretta sacra
(黒いシラサギ類)



コサギよりやや大きく、名前のとおり黒いサギで、くちばしは太く短く、足は黄色く短い。

奄美大島以南の沖縄方面では、白色型もいる。体全体が白く、くちばしの色が黄色である。九州以北の個体は黒色型で体とくちばしの色も黒く、わずかに足だけが黄色である。

日立より鹿島にかけて、ウミウの調査をしたときに初めて発見し「なんだ！こいつは？黒くすすけたサギは。」とびっくりしてシャッターを押した。本州以南の岩場の多い海岸に生息して海岸線や内部の水田などで魚介類を採餌する。

8月下旬から9月上旬がサギの衣替えの時期で、くちばしの色が冬色に移行途中でまだらだったりして観察するにはおもしろい。また、今はシギ・チドリ類の移動期で、町内の水田地帯は旅の中継地点（東京湾や渡瀬遊水地の手前の休息地）として重要な場所である。水張り休耕田に目を向けると珍客（鳥）を発見することができる。



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA：環境保護印刷推進協議会
http://www.e3pa.com